

第27回原子力委員会定例会議議事録（案）

1. 日 時 2005年7月12日（火）10:30～10:45
2. 場 所 中央合同庁舎第4号館7階 共用743会議室
3. 出席者 近藤委員長、齋藤委員長代理、町委員
内閣府
戸谷参事官、後藤企画官、森本企画官
経済産業省
原子力発電安全審査課 恒吉統括安全審査官、宮崎安全
審査官
4. 議 題
 - (1) 前回議事録の確認
 - (2) 日本原燃株式会社再処理事業所における再処理の事業の変更許可につ
いて（諮問）（経済産業省）
 - (3) 原子力委員会参与について
 - (4) その他
5. 配布資料
 - 資料1-1 日本原燃株式会社再処理事業所における再処理の事業の変更許
可について（諮問）
 - 資料1-2 日本原燃株式会社再処理事業所再処理施設の再処理事業変更許
可申請書の概要について
 - 資料2 原子力委員会参与について（案）
 - 資料3 第26回原子力委員会定例会議議事録（案）
 - 資料4 原子力委員会 新計画策定会議（第30回）の開催について
6. 審議事項
 - (1) 前回議事録の確認

事務局作成の資料3の第26回原子力委員会定例会議議事録(案)が了承された。

(2) 日本原燃株式会社再処理事業所における再処理の事業の変更許可について(諮問)(経済産業省)

標記の件について、恒吉統括安全審査官より資料1-1及び1-2に基づいて説明があり、以下のとおり質疑応答があった。

(近藤委員長) 変更後の第1低レベル廃棄物貯蔵系の最大保管廃棄能力である約13500本(200ℓドラム缶換算)は中途半端な数字だが、どのような意味があるのか。

(恒吉統括安全審査官) 当初の申請では、年間約1700本分の廃棄物の発生を見込み、その5年分の約8500本としていた。しかし、燃料貯蔵プールの補修工事があり、これに伴い発生した低レベル固体廃棄物を、現在使用済燃料の受入れ施設及び貯蔵施設に保管している。この廃棄物を、再処理設備本体と同じ平成19年5月の第2低レベル廃棄物貯蔵系の竣工までの間、第1低レベル廃棄物貯蔵系に保管する。その際、最大保管廃棄能力を約8500本から約5000本増加して約13500本にしたいと考えている。さらに、その竣工後は第2低レベル廃棄物貯蔵系に保管するという計画である。

(齋藤委員長代理) 第1低レベル廃棄物貯蔵系はそもそも最大何本保管できるようになっているのか。資料1-2に、その建屋は地上1階(地上高さ約6m)、平面が約73m(南北方向)×約38m(東西方向)とあり、最大容量は限られており、それに応じた最大保管本数で最初から許可を取っていなかったのか。

(恒吉統括安全審査官) 現在は廃棄物をつめたドラム缶等を3段積みで保管している。その周囲と上方の天井との間に若干空いた空間があり、そこを利用して5000本分を増強することを考えている。

(町委員) ご説明のように工事を必要とせずに最大保管廃棄能力を増加できるのだから、当初から増加した能力で申請すればこの変更申請は不要であったということか。

(恒吉統括安全審査官) そのとおりである。

(町委員) そのような申請をしなかったのはどのような理由によるものか。

(恒吉統括安全審査官) 燃料貯蔵プールの不適切な溶接があり、その補修工事のため想定外の廃棄物が発生したということである。現在、使用済燃料の受入れ施設及び貯蔵施設で仮保管しているので、第1低レベル廃棄物貯蔵系に移して保管したいと考えている。

(近藤委員長) 事業許可は建屋などの許可をするのではなく、事業のコンセプト等を許可するものである。廃棄物の発生量を5年間で約8500本分と見込んでいたが、それよりも増加してしまったので、そのコンセプトを変更するということである。そもそも補修工事などの不測の事態も考慮して保守的な発生量を見積もるべきだったのではないかという議論はあるかもしれない。今回は工夫をして建屋に保管する量を増やすだけの申請だが、コンセプトの変更なので諮問を受けたということである。

この変更申請に関しては、敷地境界での線量が唯一の国民の関心事ではないかと思うが、そちらについてもきちんと審査がされていることと思う。

それでは本件はお預かりし、検討の上後日答申を申し上げる。

(3) 原子力委員会参与について

標記の件について、戸谷参事官より資料2に基づいて説明があり、以下のとおり発言があった。

(齋藤委員長代理) 法曹界という貴重な分野の方であり、再任していただくことは結構であると思う。

(近藤委員長) それでは本案のように決定する。

(4) その他

- ・ 事務局より、7月19日(火)に次回定例会議が開催される旨、報告があった。
- ・ 事務局より、7月15日(金)に原子力委員会 第30回新計画策定会議が開催される旨、報告があった。